

巻頭言 2025 年 4 月

久仁 京介

先月 3 月から目まぐるしいお天気の移り変わりで、気温の変化についていけないジジィがひとりいます。

一人で体の異常な変化に戸惑っていますが、天気のせいかジジィのせいか、当然のようにそのどちらも該当しているのでしょう。

巻頭言らしくねえじゃないか、もっとシャキっとしたことを云えと云われても仕方ないですが、温かい日があつて、寒の戻りがきた途端に坐骨神経痛に見舞われて、急に歩行困難に陥っている。

そんな時に、もしかするとボケも一気に加速するのかと思えるほどのことが起こった。朝、床屋に行こうとお天気の様子を見ながら家の外に出た。晴れて温かそうだったので軽い身なりで外へ出た。

出たとたんに物凄く冷たい空気で、着たものを間違えたと思ったが、しかし戻って着替えるには間に合わないと、車庫にあった車に乗った。今日は日曜日、混雑する場所は承知してはいたが賭けであつた。20 分ばかり走ると渋滞の箇所、まずいと思い床屋に遅れると連絡を入れた。何と思いがけない答えがきた。「来週の火曜日ですよ、久仁さん」うわー！何てことだ。

暫く渋滞の中で考えた。それなら家に帰ろうと思い立った時、そこは車線変更禁止エリア、判っていたのに左へ路線変更した、その時ピーピーとけたたましい笛の音。あっさりと観念して警官に従った。それは大変に人も車も混雑している狭いバス通り。「免許証」といわれてバッグを開いたその瞬間に、確認するまでもなく持っていないことにも気が付いた。バッグを変えて出たからだ。若い警官はケータイで交番と連絡を取り合っている。

停車したその瞬間、その場所から一步も移動出来ないことを知った。

さて、どうする？ とても穏やかな若い警察官に好感がもてた。

誰かに免許証を持参させなくてはならない、隣町に棲む長男に頼むことが出来て届くまで 2 時間を要した。その間ずっと警官は穏やかに雑談で付き合ってくれた。

最初のボケは薄着で出たこと、刹那的に車を出したこと、免許証はいつも持参していたと思い込んでいたこと、床屋の予約日を違えたこと、車線を変更したことなど、小さないくつかのミスと勘違は大きなミスにつながったのだ。相当のボケ話と自覚した、したがってこれはボケと認定せざるを得ないことを確認できた。

大変ぶしつけな巻頭言となったが、今後は気を付けなければならないと、ボケと思っていないボケの話、笑ってお納め願います。(笑)